

## それぞれの「女性活躍」

※前回の振り返り

前回会議での意見要旨 / それぞれが考える「女性活躍」とは

---

- 家庭や職場において、男性が当たり前だと思っていることが、決して当たり前ではないことに男性自身が気付くこと。
- 男性が多くいる環境の中に女性がいると、ことさら女性であることを強調されるが、そういう見られ方や扱われ方がなくなること。
- 女性男性というのは本来関係ないと思うが、ダイバーシティの実現に向けて、女性である事へのフィルターや負荷があるのであれば、それを取り除くこと。
- 女性社員が結婚や出産、子育てを経ても長く勤務し、能力を発揮できる職場環境を整備すること。そういう会社をつくること。
- 働くことに限らず、家庭や社会、職場など、フィールドはそれぞれであっても、自分に納得感を持ちながら毎日を過ごしていること。
- 働くことに限定せず、子育てでもその他のことでも、自分の考えに基づく行動を全うすること。
- 出産や更年期にまつわる女性特有の健康課題に対し、男性との相互理解のもと、働きやすい環境づくりを行うこと。
- 議会など意思決定過程における女性割合は未だに低いため、海外でのユニークな取組（例えばフランスでの議会のペア出馬制など）なども旭川で取り入れることを考えていけば、面白い女性活躍ができると思う。
- 家庭や社会で女性に求められる働きは多く、さらに職業現場で活躍することを求められるのは非常にハードルが高いと感じる。肩書きやステイタスではなく、自分の中で自尊心や充実感、自分で認めてあげることができれば、女性活躍と言えるのではないだろうか。
- 様々な団体に占める女性割合はまだまだ低く、そういう中に女性として参加していることも女性活躍であり、男女がもっとフラットに話し合えることが女性活躍だと思う。
- パートナーの状況や家庭環境、時間的制約に関係なく、女性が仕事を続けられる環境をトータルで揃えられること。